

# 記録メディアのあゆみ

## フロッピーディスク

1960	1970	1980	1990	2000	2003
		<b>1972年 8型フロッピーディスク (FD)</b> IBMが商品化。磁性材は酸化鉄。片面単密度で記録容量は400 k B。 1978年に両面倍密度で容量1.6MBとなる。			
		<b>5.25型フロッピーディスク</b>			
		<b>1976年 片面単密度 (MD-1D)</b>			
		<b>1979年 両面倍密度 (MD-2D)</b> 日立マクセルが商品化。磁性材は酸化鉄。当初はトラック数35、記録容量109 k B。 その後、トラック数40×2、記録容量500 k Bとなった。			
		<b>1981年 両面倍密度倍トラック (MD-2DD)</b> 日立マクセルが商品化。トラック数80×2、容量1.0MB。			
		<b>1982年 両面高密度 (MD-2HD)</b> 日立マクセルが商品化。磁性材はコバルト系酸化鉄。トラック数77×2。 容量1.6MBで8型FDとの互換性。			
		<b>3.5型フロッピーディスク</b>			
		<b>1980年 片面倍密度 (MF-1D)</b> ソニーが3.5型フロッピーディスクを開発。磁性材はコバルト系酸化鉄。トラック数40、記録容量250 k B。			
		<b>1983年 両面倍密度倍トラック (MF-2DD)</b> ソニーが商品化。記録容量は1.0MB。			
		<b>1986年 両面高密度 (MF-2HD)</b> トラック数70×2、記録容量1.6MBで8型FDと互換性あり。その後、トラック数80×2、容量2.0MBのものも登場。ラップトップ型、ノート型ワープロ、パソコンに広く使用される。			
		<b>大容量3.5型フロッピーディスク</b>			
		<b>1987年 両面エクストラハイデンシティ (MF-2ED)</b> 東芝が商品化。磁性材にバリウムフェライト。容量4 MB。			
		<b>1990年 両面トリプルトラック (MF-2TD)</b> NECが商品化。メタル磁性体。容量12.5MB。			
		<b>1992年 フロプティカルディスク</b> 米・インサイト開発。バリウムフェライト磁性体。容量21MB。			
		<b>1995年 Super Disk</b> 米・イメージオン、ORテクノロジー、コンパック、松下寿電子が共同開発。容量120MB。2001年に容量240 MBを商品化。下位互換性あり。			
		<b>1995年 Zip (3.7型)</b> 米・アイオメガが商品化。容量100MB。パソコン等に広く使用される。ZIP以外との互換性なし。1999年に、容量250MB、2002年に容量750MBを商品化。			
		<b>1995年 HiFD</b> ソニー／富士写真フイルムが共同開発。3.5型FDと下位互換性有り。容量200MB。			
		<b>大容量超小型フロッピーディスク</b>			
		<b>1999年 Click!</b> 米・アイオメガがモバイルPCやデジカメ用に商品化。容量40MB。			

FLOPPY